

| | | | | | |
|-------|---------------------------------|-------|--------|------|----|
| 事業名 | 食品の安全・安心推進事業費 | | | 調書番号 | 10 |
| 細事業名 | 食品表示ウォッチャー設置費 | 財務コード | 651502 | | |
| 担当部課室 | 県民生活 部 消費生活安全 課 食の安全・食育 担当 (内線) | 2274 | | | |

I 事業の概要

| 実施期間 | 始期 H15 年度 ~ 終期 年度 | | | | | | |
|-----------|--|------------------------------------|-----------------|--------------|----------|---|------------------------------------|
| 実施主体 | 県(直営) | | | | | | |
| 目的 | <table border="1"> <tr> <th>だれ(何)を対象に</th> <th>その対象をどのような状態にして</th> <th>結果、何に結びつけるのか</th> </tr> <tr> <td>県内の一般消費者</td> <td>研修受講や、食品表示のモニタリング活動について定期的な報告を行うことにより、食品表示に対する知識や理解を深め、不適正表示の判断と報告ができる。</td> <td>食品表示の適正化の推進 (報告に基づく事業者への指導を通じて)</td> </tr> </table> | だれ(何)を対象に | その対象をどのような状態にして | 結果、何に結びつけるのか | 県内の一般消費者 | 研修受講や、食品表示のモニタリング活動について定期的な報告を行うことにより、食品表示に対する知識や理解を深め、不適正表示の判断と報告ができる。 | 食品表示の適正化の推進 (報告に基づく事業者への指導を通じて) |
| だれ(何)を対象に | その対象をどのような状態にして | 結果、何に結びつけるのか | | | | | |
| 県内の一般消費者 | 研修受講や、食品表示のモニタリング活動について定期的な報告を行うことにより、食品表示に対する知識や理解を深め、不適正表示の判断と報告ができる。 | 食品表示の適正化の推進 (報告に基づく事業者への指導を通じて) | | | | | |
| 内容 | <p>○事業概要 食品表示法等に基づく食品表示の一層の適正化を図るため、一般消費者を食品表示ウォッチャーとして知事が委嘱し、日常の買い物を通じて県内の食品販売店における食品表示を継続的に監視(モニタリング)し、その状況を県に定期的に報告してもらう。食品表示について違反が疑われる旨の報告があった場合には、当該食品の販売店指導等を実施する。</p> <p>【H29実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・委嘱人数 :97人(市町村推薦 61人、消費者団体 11人、公募 25人) ・委嘱式・第1回研修会(4月)、第2回研修会(10月)、 ・食品表示に係る監視(モニタリング)活動の報告(3か月に1回、年4回) ・食品表示について違反している疑い事例などの報告があった場合には、食品販売店の指導を実施(随時) | | | | | | |

II 事業の目標、実施状況等(事業実績及び成果の達成状況)

| 区分 | 指標 | 25年度 | 26年度 | 27年度 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 31年度 |
|--------------|-------------|--------|------|------|------|------|------|------|
| 活動指標 | 研修会開催数 | 目標 | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 |
| | | 実績(見込) | 4 | 5 | 5 | 5 | 6 | 5 |
| | | 達成率 | 80% | 100% | 100% | 100% | 120% | 100% |
| | | 達成区分 | b | b | b | b | a | b |
| 成果指標 | 全報告中の疑義報告割合 | 目標 | 11% | 11% | 12% | 12% | 15% | 16% |
| | | 実績(見込) | 8% | 14% | 13% | 17% | 16% | 16% |
| | | 達成率 | 71% | 130% | 108% | 144% | 107% | 100% |
| | | 達成区分 | c | a | b | a | b | b |
| 決算(予算) 単位:千円 | | 854 | 851 | 810 | 796 | 707 | 734 | 734 |

III 事業の評価(平成29年度の業績評価)

| | | | |
|------|---|----|--|
| 活動指標 | a | 評価 | |
| 成果指標 | b | | 疑義情報報告割合は目標を達成しており、研修によるウォッチャーの知識や理解の向上が認められ、意図した成果をあげている。 |

- ・「活動指標、成果指標の達成率」から事業の活動量、成果に係る一次評価の考え方を記載すること。
・指標がない場合や指標を補足する必要がある場合には、指標によらない成果を用いて記載すること。

IV 見直しの必要性(平成31年度に向けた改善等の考え方)

| | | | | |
|-----------|----|--|--|---------------------------------------|
| 関係との必要性 | 判定 | <input checked="" type="checkbox"/> 必要性が高い | <input type="checkbox"/> 必要性がある程度認められる | <input type="checkbox"/> 必要性が低い |
| | 説明 | <input type="checkbox"/> 社会経済環境の変化により、当該事務事業が解決すべき課題が増えている、増えることが予想される <input type="checkbox"/> 事業の拡大や充実を求める意見・要望が増えている <input type="checkbox"/> 法令等により、県が実施することが義務づけられている <input type="checkbox"/> 県が実施しないと、県民生活に深刻な影響が生じる <input type="checkbox"/> 民間が実施した場合、現在のサービス水準を維持することが、収益性や技術面で困難である。 <input checked="" type="checkbox"/> その他 () | | |
| 有効性(成果向上) | 判定 | <input type="checkbox"/> 大幅な成果向上が可能 | <input checked="" type="checkbox"/> 成果向上が可能 | <input type="checkbox"/> 成果向上はあまり望めない |
| | 説明 | 研修により食品表示に関する理解が深まることにより、疑義表示の発見が可能になり、疑義表示報告件数の増加が図られる。 | | |
| 見直しの余地 | 判定 | <input type="checkbox"/> 見直す余地がある | <input checked="" type="checkbox"/> 見直す余地がある程度ある | <input type="checkbox"/> 見直す余地がない |
| | 説明 | <input type="checkbox"/> 民間委託や指定管理者制度の活用など事業手法の見直しの余地がある <input type="checkbox"/> 業務の進め方や手続き(業務プロセス)を簡略化・簡素化する余地がある <input type="checkbox"/> サービスの対象、水準、内容を見直す余地がある <input type="checkbox"/> 実施体制(事業間・組織間の連携や事務分担など)を見直す余地がある <input type="checkbox"/> 投入したコストに見合った効果が現れておらず、効果向上やコスト削減を検討する余地がある <input checked="" type="checkbox"/> その他 () | | |
| その他 | 説明 | 研修内容や報告様式を見直す余地がある。 | | |
| 見直しの必要性 | 有 | 多く見られる不適正表示事項やモニタリング時のポイントなど、より実践的な内容を研修に追加することで、疑義報告の増加を図る必要がある。 | | |

V 見直しの方向(平成31年度当初予算等での対応状況)

| | | |
|----------|----|---------------------|
| 実施方法等の変更 | 説明 | 研修内容をより実践的な内容に改善する。 |
|----------|----|---------------------|

- ・見直しの方向は、「廃止」「一部廃止」「終期設定」「休止」「他事業と統合」「縮小」「拡大」「実施方法等の変更」「改善済み」の中から選択し、IV見直しの必要性を踏まえ、具体的な実施計画等を分かりやすく記載すること。見直しがない場合は「現行どおり」と記載し、必要に応じてその理由を記載すること。